【学術変革領域研究（A）】

日本列島域における先史人類史の統合生物考古学的研究－令和の考古学改新－

領域代表者	東京都立大学・人文科学研究科・教授 山田　康弘（やまだ　やすひろ）　研究者番号:40264270
研究領域情報	領域番号：23A102　研究期間：2023年度～2027年度 キーワード：考古学、人類学、バイオアーケオロジー、

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

●研究の全体像

本領域研究では、日本列島域において、特に人骨・動植物遺存体などの出土資料を主たる対象として、現在の考古学的手法に、年代測定、同位体分析、ゲノム分析などの自然科学的手法を織りませた総合学問領域である「統合生物考古学」の構築を提唱し、その普及をめざします。

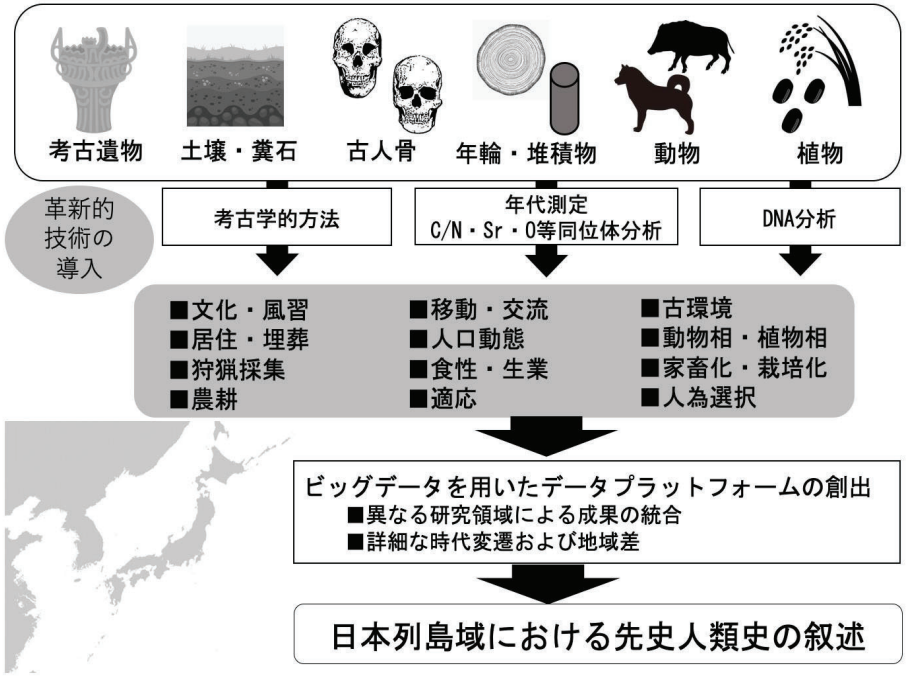

図1　研究全体のイメージ

●今、日本考古学は変革の必要に迫られています。

研究の背景：現在、縄文時代をはじめとする先史時代の考古学は、大きな曲がり角に来ています。すでに住居址などの遺構や土器・石器といった遺物（人工遺物と言います）の分析といった、従来の考古学的手法のみで過去の実像に迫ることは非常に難しいということが明らかにされており、今後さらに発展していくためには、考古学そのものが従来のような文系学問領域からシフトして、新たな学問領域へと生まれ変わる必要があります。そこで本研究領域は、日本において、特に人骨・動植物遺存体などの出土資料（自然遺物と言います）を主たる対象として、現在の考古学的方法に、年代測定、同位体分析、ゲノム分析などの自然科学的な手法を取り入れて歴史の再構築を行う、文系・理系の壁を超えた新たな総合的学問領域である「統合生物考古学」（ integrative bioarchaeology ）の構築を提唱するものです。

●研究資料・方法の整備・公開

・研究データの共用プラットフォームを構築するために、出土人骨や各種分析結果のデータベースを作成・公開し、広く利用に供します。

・考古学と自然科学を融合させた総合知としての新たな学問的枠組みを構築すると共に、各種論文発表・学会発表・シンポジウム・講演会などを通じて、考古学を文系と理系双方の方法論を併せ持つハイブリッドな領域へとシフトさせます。

●ハイブリッドな研究に対応できる若手人材の育成

・統合生物考古学の実践を通じて、文理の枠を超えた国際的にも活躍可能な次世代を担う卓越人材を育成します。

・学生や社会人を対象とした各種フィールドスクールおよびセミナー等を実施し、このようなハイブリッドな研究に対応できる研究者の養成を行います。

図2　出土人骨の分析のイメージ

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

●統合生物考古学的見地からの新たな日本人種論の提出、先史時代の歴史学的叙述を行います

考古学的手法＋形態・年代測定・同位体分析・DNA分析を中核的方法論とし、歴史的叙述を行う統合生物考古学を提唱・実践します。これにより日本列島域の先史時代を再検討し、「新たな日本人形成論」を提示します。具体的には図3のように、考古学的分析から検討すべき課題を設定し、理化学的分析を行った後、その成果を組み合わせて、先史時代の歴史学的叙述を行います。

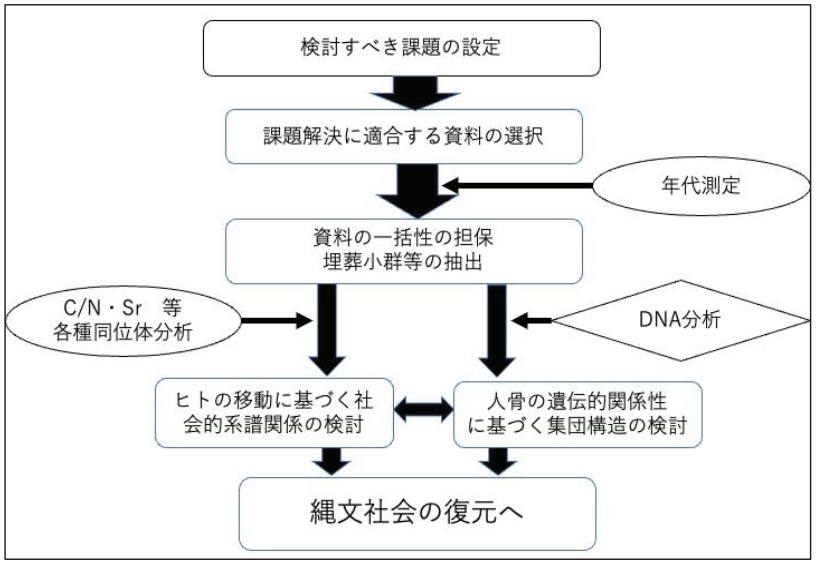

図3　縄文時代を例とした新たな歴史学的叙述の方法論モデル

ホームページ等	https://i-bioarchaeology.org　https://twitter.com/i_bioarch